

食を生かした地域づくりに取り組む住民代表らが
集まったフォーラム



「商品のブランド化を」

「食」を生かした地域づくり
旭川でフォーラム

「食」を生かした地域づくりフォーラムが三十日、旭川地場産業振興センター（旭川市神楽四のついで）で開かれ、そばやうどんを通してマチおこしに取り組む富良野市や美瑛町、下川町などのグループの代表者らが意見交換した。

各自自治体が知恵を出し合い、食料生産地の強みを生かそうと上川支庁が初めて主催した。はじめに、焼きそばで有名な静岡県富士宮市の「富士宮やきそば学会」の渡辺英彦会長が講演し、設立から五年間を振り返った。へらをハッ印に組み合わせたロゴ作成や、作り手を「やきそばG蔵」と呼ぶユニークな活動を紹介しながら、「市民が中心にアイデアを出し合って」と話した。

続く意見交換会には、渡辺さんのほか、「富良野カレー」の飯沼慶さん、「美瑛カレーうどん」の西森和弘さん、「下川手延べうどん」の田畑寿彦さんと、いずれも食を通じて地域活性化を図るリーダーが参加。「地域と商品のブランド化」「地域同士の提携」「採算性の確保」などに重点的に取り組むことで一致した。

(相川康暁)

